

# 子育て王国そが



公園



常盤公園で遊ぶ楠戸颯人くん(4歳)と咲野ちゃん(1歳)。お父さんの豊さんは「新しくきれいで、広々としているので子どもものびのび遊べます」と教えてくれました。

みんなの憩いの場で、子どもがのびのびと遊べる公園。天気の良い日には親子で遊びに出かけてみてはいかがですか。清音ふるさとふれあい広場や市スポーツセンターなど、豊かな自然のなかで、だれもが、いつでも、楽しいひとときを過ごすことができる公園が市内にはたくさんあります。

外遊びが気持ちいいこれからの季節、公園で走ったり、遊具で遊んだり、ベンチでのんびり読書したりなど、家族みんなでいろんな楽しみ方ができそうです。親子いっしょに太陽の日差しをいっぱい浴びながら楽しく子育てしましょう。

北側の出入口で、チュッピーが出迎えてくれる常盤公園。すべり台やブランコ、鉄棒、つり橋などのコンビネーション遊具など色とりどりの遊具があります。きっと子どもたちの冒険心をワクワク、ドキドキさせてくれることでしょう。昨年完成したこの公園は、万一のとき避難場所になる防災公園です。備えている防災設備を、親子で探してみるのもいいでしょうね。

問い合わせ ことども課母子保健係 (☎92-8261)

## 絵本よんで!



『くだもの』  
平山和子・さく  
福音館書店

## 今日のテーマ 「題材 その1」

3歳ごろまでは、身近な題材をテーマにした絵本を選ぶと、子どもは理解しやすいでしょう。

0歳ごろは、スプーンをはじめ、コップ、くつなど身近なものや、「ばいばい」「こんにちは」などといった日常動作に興味を示します。2歳前後の子どもは、非常によくまねをします。「さあ、どうぞ」「ありがとう」など、絵本を通して大人との言葉のやりとりを楽しめるようになります。

インタビュー  
Interview

輝いている人

多くの人に  
環境について考えてほしい



写真集『島が沈む国が沈むツバル2010』を出版した

河田雅史さん(西阿曾)

南太平洋の島国ツバルの現状や、人々の暮らしぶりを収めた写真集『島が沈む国が沈むツバル2010』を出版したのが、報道カメラマンの河田雅史さんだ。ツバルは9島からなり、標高は高くても海拔5mの島。海面の上昇で国土が水没の危機があるとされている。人口は約1万人。

「最初は旅行気分だった」。仕事上の知人に誘われ昨年6月に渡航。到着間近の機内から撮影した島や海岸などお気に入りの写真を広げ「空と海の青さに感動した」と教えてくれた。

事前に調べても島の情報は多くなく、宝探しのようになり浸食される状況を目の当たりにし、本当に危ないと肌で感じたそうだ。海面上昇は塩害をもたら

し植物が育たず、食糧を輸入に頼ったことに起因するごみの山。普段はあまり撮らないごみに、「だれがどう処理するのか」と、自問しながらレンズを向けた。そんななかで、明るく生活する人々と数多く出会った。「通りがかった学校の子どもたちの目の輝きが、キラキラとしていた」と、危機とは無縁の弾ける笑顔が印象的だったと話す。

撮影枚数は500枚以上に。帰国後、ツバルの現状を伝えようと同行した知人と編集を始め、今年1月に初出版にこぎつけた。

今後は、写真展や講演会を開き、地球温暖化と環境問題について伝えていきたいという河田さん。「温暖化も環境問題もみんなの問題。この本を見て、多くの人に環境について考えてほしい」と訴える。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そが編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。